

武雄市図書館訪問記

昔話大学最終講義の余韻も醒めやらぬ9月30日(月)、私は“図書館問題研究会山口支部主催、図書館友の会山口県連絡会共催”の『武雄市図書館を見学して考えよう!』という、武雄市図書館見学ツアーに参加しました。

このツアーは、武雄市図書館を自由見学した後、武雄市で活動が続けている“武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会”代表・井上一夫さんの講話を聞くというツアーで、市民の会に所属している方々のご意見も、短時間ながら聞く事が出来ました。

佐賀県武雄市は古くからある温泉地ですが、鍋島の蘭学、流鏝馬、武雄の大楠など、世界に誇れる歴史・文化・自然を有した地です。武雄市図書館・歴史資料館はその歴史文化構想のもと、図書館を中心とした文化施設群を作るという計画で配置された施設なのだそうです。私はこの日、図書館の前を走る流鏝馬の道と、それに続く石垣の上の神社、そして神社の奥の図書館から徒歩10分程の所にある武雄の大楠を見ました。大楠は、うろ中にトトロが寝ているかの様な息をのむ程立派な樹でした。

図書館を挟んで神社の反対側には“ゆめタウン武雄店”があります。ゆめタウンと図書館は、信号も無い横断歩道を挟んでお隣同士という位置関係です。ここには書店もあれば飲食店もあります。武雄市図書館を指して「本屋やカフェの無い田舎にこういう施設が出来るのは便利で良い」という意見を少なからず見聞きしましたが、武雄市の場合、4,5億円もの税金を使ってわざわざ図書館に作らなくとも徒歩1分もかからない場所に本屋も飲食店も入った複合商業施設があるのです。

では、図書館に入ってみましょう。

何がどこにあるか分かり難いし、書架が非常に高いので見通しが悪い図書館です。ふと見上げた棚に、“昔話大学”でもおなじみの御尊名を冠した『柳田國男全集』を見つけのぞき、側にあった2段の脚立に乗って手を伸ばしましたが、私の指先はその全集に触れることさえ出来ませんでした。

図書館側の説明として「高い位置に置いている本は、あまり利用されない本」との事ですが、図書館改修前の説明では「全ての本を利用者が手に取って見てもらう事が出来る様に全開架にする」との事だったのに、手に取るどころか高さによっては目に入りもしない場所に本が置いてあるのです。

書架の高い位置には落下防止バーが付いているのですが、バーはネジではめ込んであり、外すのに手間がかかる構造になっています。そのバーの向こうに、広辞苑並み

の厚さの本がキッチリ並べてある段がありました。この本を出すには、高い脚立に乗りバーのネジを外してから取り出すしか方法が無いでしょう。

「高い位置にある本を取りたい時は声をかけて下さい」との事ですが、ちょっと気になった程度であれば、他人の手を煩わせることに躊躇するのではないのでしょうか？ 実際私も、柳田國男全集を見る事を諦めました。

さて武雄市図書館は、事務室や書庫なども一般書架として改修されたので図書館部分が幾つものエリアに分かれており、更に高い書架で箱の様に区切られた空間を2つ設置しているので、迷路の様な作りになっています。

本は独自分類で配置しているそうなのですが、そのサインも分かり難く、個人的な感想ですが、本を探すのが面倒くさくなる図書館です。有り体に言えば、図書館としてはもの凄く使い難い図書館です。今年8月に行われた武雄市子ども議会(Ustreamで録画視聴可能)で中学生からも「何がどこにあるか分かりやすい表示をしてほしい」という意見が出されていましたが、市長の答えは「何回かくれば慣れる」でした。図書館側の説明では、「発見」してもらうための配置だそうですが、必要な物を「探し出す」ことが難しい作りになっています。そして“発見”のためでしょうか？一般的な図書館に見られる特設コーナーなど図書館側が利用者に本をアピールしている部分が児童書の面置き程度しか見当たりませんでした。

驚愕したのは、大人の手が届かない高い場所に絵本をはじめとした子どもの本が配置してある事です。この事実は、武雄市図書館を訪れる前から写真等で知っていたのですが、その範囲が想像の斜め上を行っていました。1階のキャットウォーク真下の一般書架上部、7段目以上の高さに児童書が延々と並べられているのです。1例を上げると、美容・健康の一般書が並んでいる書架を見上げると、落下防止バーに押さえられたドリトル先生や怪人20面相のシリーズが置いてあるのです。見上げる高さに延々続く児童書の並びはそのまま児童書エリアにつながり、その高さのままで絵本が面置きされています。大人でも手の届かない高さに置かれた絵本を見て「絵本は飾りじゃ無い！」と憤らずにはおれませんでした。

児童書エリア内の図書館奥にあるおはなしの部屋はオープンスペースになっており明るく開放感がありますが、館内に流れている音楽がダイレクトに入ってくるので、定期的に行われているボランティアによるおはなし会はさぞやり難いだろうと思います。また呆れたのは、おはなしの部屋の前に、商業施設の子どものコーナーにありがちな大型テレビ画面が設置されていた事です。私が訪れた時には電源は入っていないようでしたが、ここで何を映すつもりなのでしょう？

この図書館には TSUTAYA とスターバックスが併設されていて正面入り口から先に広がるのは販売書籍とスターバックスエリアです。それに、図書館内のテーブルや座

席には、月曜日にも関わらず多くの人が座っていましたが、特に人が多く集まっていたのはスターバックス周辺で、飲み物を傍らにスリッパが入ったままの新刊書や雑誌を読んでいる人、おしゃべりに興じている人などで座席が埋まっています。商業エリアの奥に押しやられるように存在する図書館を見て、「スタバ付き TSUTAYA に図書館が併設されている」とつくづく思いました。

レンタル DVD コーナーは、オランダから取り寄せたタイルで設えられた蘭学館跡にあります。ビッシリと並んだ DVD の所々に設置されたモニターには、最近話題になった映画の宣伝が流れており、武雄市内に別にある TSUTAYA のレンタルショップと品揃えに違いが有るのだろうかと思いをめぐらしました。2億1千万円かけて設えた蘭学館の映像設備等を取り去ってまでレンタルショップを作る事にメリットがあったのでしょうか。

販売されている書籍も、ショッピングモールに入っている書店と同じ様な品揃えで、一番目立つ所に武雄市長の自著が積み上げてある意外に珍しさはありません。児童書を始め書籍は販売と図書館の本との境が分かり難く、本の中に雑貨を置いているコーナーもあり、雑然とした印象しか残りませんでした。武雄市図書館そばのゆめタウン内にある書店の方が図書館内にある TSUTAYA 書店より本の配置が分かりやすく、使い勝手は上だと感じます。

市民の会代表・井上一夫さんから、改修前は持ち込んだ物を飲食出来るエリアがあったのでゆめタウンでパンなどを買い、子どもでも図書館で一日過ごす事が出来たのに今の図書館で子どもを一日過ごさせる事は出来ないという話も聞きました。確かに図書館だったら安心ですが、商業施設で子どもを長時間過ごさせる事は出来ませんね。

井上さんの講話は主に、図書館の改修前と後の比較を写真で説明してもらおうという物だったのですが、改修前の図書館が使いやすく開放感と明るさにあふれ子どもに対しても細やかな配慮の行き届いた図書館であった事がよく分かりました。

例えば、改修前はトイレが4カ所あり、おはなしの部屋のすぐ側にもトイレと授乳室があったそうです。改修後、トイレはおはなしの部屋から遠く離れた入り口近くの一カ所だけになりました。また、床下に配線を這わす為に床を上げたせいで、改修前には無かったスロープや段差が出来ています。それにキャットウォークを増設したため、キャットウォークを支える為の柱が1階に何本も立つ事になり、迷路の様な作りとも相まって、全体的な通路は改修前より狭くなっています。

防火扉の前に看板など物が置いてある事にも驚きました。職員には危険だと声をかけましたが改善してはもらえませんでした。そう言えば、2階キャットウォークが建築基準法施行令第120条で定められた“避難階又は地上に通ずる直通階段”までの30

メートルより長いため一部立ち入り禁止になっている事実や、高所作業（危険作業）が必要な背の高い書架を導入した事、スロープや段差で車いすやベビーカーでの館内移動が以前より難しくなった事、特に非常口に段差を作ったことなどから、ここは防災意識が低く人命を軽視した施設なんだと強く感じました。

それから、武雄市図書館の貸出しも増えていると喧伝されていますが、学生がTポイント欲しさに読みもしない本を毎日借りていたり、図書館ボランティア向けに「もっと本を借りてください」というアナウンスがあつたりしているのだそうです。そこまですなければ図書館が成功したという体裁を保てないという事でしょう。

このように、武雄市の図書館には改修など必要が無かった事、CCCが図書館の指定管理者としての能力を備えていない事を改めて確信した武雄市図書館訪問でした。

図書館を奪われる事を、市民の会の井上さんは「知的基盤を奪われる」と表現しています。市民の会は「本当の図書館を取り戻す」ためにこれからも活動を続けて行くそうです。また、井上さんは日本中を飛び回り講演会を行っています。武雄の事を知ってもらふことと、同じ過ちが繰り返されない為にです。

私たちは、武雄市民が図書館を取り戻す事を応援するとともに、自身が住む自治体の図書館が図書館でない物に変えられないよう見守り続ける必要があると強く思います。

<後日談1>

10月30日に行われた図書館総合展の中で「武雄市図書館」を検証するというフォーラムが行われ、図書館界で有名な糸賀雅児教授が「本を使った集客施設としては成功だが、図書館とは言えない」という趣旨の発言をされています。このフォーラムの全容は『図書館総合展「武雄市図書館」を検証する」全文（樋渡啓祐市長、糸賀雅児教授、CCC高橋聡さん、湯浅俊彦教授）』とのタイトル前後編でネットにUPされています。武雄市図書館だけでなく、これからの図書館のあり方を考える上でも大いに参考になる内容です。

<後日談2>

武雄市で市民の会の皆さんに「応援します！」と宣言して帰った山口県グループですが、二週間もたたないうちに当事者となりました。

山口県周南市徳山駅の駅ビル立て替えに際しTSUTAYA図書館導入が検討され、12月議会ではその可否が決定しそうなのです。あまりの急展開に驚いてばかりは居られず、あれこれ動いているのですが、この顛末も近いうちに報告出来ればと思います。吉報になる事を願って。